

江戸崎地方衛生土木組合
視察研修報告

視察日

平成25年7月17日～19日

視察先

- ・ 鹿児島県始良市
- ・ あいら清掃センター
- ・ 鹿児島県鹿屋市
- ・ 肝属地区清掃センター

視察目的

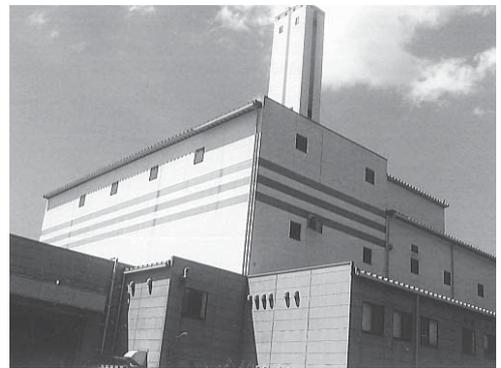
本年4月から循環型社会形成に向けて、資源ごみ分別収集を開始し、環境行政の第一歩を踏み出したところですが、施設整備基本計画の根幹である、ごみ処理施設の焼却炉に重点を置いて、実情に即した施設整備の手懸かりとするため。

参加者

- 沼崎光芳 椎名利夫

視察内容

あいら清掃センターは始良地区、加治木地区、蒲生地区のごみ処理を行い1日のごみ焼却処理能力は74ト



あいら清掃センター

ン、それに焼却灰のより一層の減量化、無害化、安定化を図るために灰溶融施設が設置されています。灰溶融炉は1日8・5トンの処理能力があり、焼却灰に含まれる有害物質、特にダイオキシン類は完全に分解します。溶融スラグはアスファルト混合物、埋め戻し材及び路盤材のほか、コンクリート製品の細骨材として使われています。このように資源の再利用と省エネルギー化を目指したすばらしい施設でした。

翌日訪れました肝属地区清掃センターは鹿屋市、垂水市、東串良町、錦江町、南大隅町、肝付町の2市4町からなる広域事務組合です。この清掃センターの熱回収施設の燃焼設備は流動床式熱分解ガス化溶融炉で1日128トンの処理能力を持ちます。余熱を利用して最大2500キロワットの発電を行っています。電力は施設内で使用し、余剰電力は売電します。そのほか回収した熱を利用した温泉センターやリサイクルセンター、粗大ごみの中から再生利用可能な物の修理、展示やリサイクルについて学ぶ「環境ふれあい館」が併設されています。周辺の環境保全を徹底するため、汚水やばい煙などを場外へ排出しない、安全でクリーンな施設となっています。

江戸崎地方衛生土木組合では、7月2日に第4回施設整備検討委員会を開催しました。当組合の1日の処理量は60トンくらいと予想されていますが、その程度の処理量で発電設備の設置が可能かどうか等プラントメーカーへのアンケートを行い、11月実施予定の次の検討委員会で結果討議をする予定となっています。そのほかリサイクルセンターやプラザの検討、公害防止基準の決定等を討議しました。

以上を踏まえ、今回の視察研修となったわけですが、焼却炉の型式、回収した余熱の利用方法、ごみの再資源化等、いろいろな点を見学することができ、これからの機種選定をする上で、大変参考になりました。



肝属地区清掃センターにて